

CORAL REEF

CONTENTS—

★コーラル第二章

★2024 T-shirt Collection

★星さんに願いを

★ごあいさつ

Vol.09



発行元 社会福祉法人ラフト コーラル

〒274-0065 千葉県船橋市高根台 6-27-10

TEL/FAX 047-401-6460

編集人 土屋 滋朗

2024年6月30日 発行

コーラル第二章

コーラル管理者 土屋滋朗

苦手なこと、人生設計。よく口にする言葉は、なるようになる。それで生きてきて、今である。

6月を迎えたコーラルの朝。あわただしく、利用者も職員も入り乱れている。

「おはようございます!」「あれっ?〇〇さんの上履きどこでしたっけ!?!」「お弁当屋さん来ました!」「お弁当見ちゃう?」「△△さん通りまーす!」「次いつ休み?」

職員間で連携を取るための社用スマホの通知がピロンピロン鳴っているが、目を通す余裕もない。

そう、これが新体制コーラル。今までアイル(5月末閉業)に所属していた利用者と職員がコーラルに合流し、慣れない環境で一生懸命立ち回っている。ある程度想像していたとはいえ、やっぱり大変。文字通り、目が回りそうだ。

そんな状況も、1週間経ち、2週間経つうちに、少しずつ動きが整理されていく。物の位置が定まり、やるべきことが見え、とるべき行動がわかってくる。利用者も職員も、お互いに。ドタバタな毎日だけれど、こんなに小さな変化が大きな成長に感じられるのも今だけかもしれないなど、ふと思う。

ずいぶん前に目にして以来、ずっと頭の中に残っている言葉がある。

——生きていることの本質は、予測不可能性にある——

わたしたちはつい、未来を予測可能にすることを社会の進歩と捉えがちだけれど、未来が本当に予測可能になったとしたら、我々は生きる意味を失うだろう。なぜなら、そこには新鮮な驚きも新たな発見も存在せず、ただただ約束された現実があるだけだから。

とは言っても、先が見えないことは誰もが不安なはず。利用者さんは特にそう。見通しやスケジュール、最重要。物事が思った通りに行かないとパニック、なんてことはよくある話。

これはなぜだろう。生きることの本質が予測不可能性であるとして、それでもみんな、約束された未来を求めている。

わたしはこう考えます。未来を知ろうとすることは、突き詰めれば「生きたい」という根源的な欲求に辿り着く。でもベースにあるのは、ちょっぴり不安な気持ち。これから起こることを知り、心の準備をすることで、現在をもっともっと安心できる状態にしたいという気持ち。

一方、予測不可能性のその先にあるものは、リスクと隣り合わせの「生きるよろこび」。予測できないことが起こるからこそ、人生は楽しい。

そう考えると、人が生きていく上で、両者を求めることは矛盾しているようで実は矛盾していないのではないかと思われてくる。要は、そのバランスや揺らぎの中に、ひとりひとりの個性や価値観が宿り、そのせめぎ合いが、生きるための原動力となっていく。

話を戻しましょう。新体制コーラルは、今まさに変化の真っ只中にいます。そこに不安を感じる方もいれば、新鮮さに心地良い充足感を得られている方もいる(気がする)。それは、利用者も職員も一緒。

折しも人事考課の時期であり、職員ひとりひとりと面談する時間が作れた。特に、悩みや不安を抱いていそうな職員へは、このようなことを伝えました。

「利用者さんと一緒にいる時間が楽しいと思えるなら、それが何よりも大事。むしろその気持ちさえあれば、その他のことはたいしたことではない。自分自身の楽しいという気持ちを大切に育ててほしい」と。幸いにして、職員はみな利用者さんのことが好きで、利用者さんと過ごす時間は楽しいと言ってくれた。これは管理者としては本当にありがたいこと。

そんなあたたかい職員たちのおかげで、こちらまで、なんだかうまく転がっていけそうな気がしてくる。そう、転がっていくんです。わたしとは言えば、冒頭に述べたような人間なので、頼もしい職員と愉快的利用者に囲まれて、あとはなんとでも、なるようになるさ、と思っている。

もうすぐ夏が来ます。コーラル、第二章に突入。

コーラルメンバー達の

Episode 01

星さんに願いを



text by Daimaru Aimi
ある日のコーラル
「大丸さん、金曜日にこれを星さんに渡してください。」楠元さんは話しかけてきたと同時に、折りたたまれたルーズリーフを私に手渡した。

受け取ったルーズリーフを開いてみると、中にはいろんな物の単語が羅列されている。どうやら、楠元さんの欲しい物のリストらしかった。一体、このリストと星さんにどんな関係があるのだろう。「ご自身で渡せばいいじゃないですか？」と私は答えた。「それじゃだめなんです。」と楠元さん。もしかしたら、私にはまだ知らない、楠元さんの日課があるのかもしれない。「うーん、そうですね。じゃあ金曜日にお渡ししておきますね！」と私は返事をして、リストの紙に【金曜に星さんに渡す】と書いた付箋を貼り付けてロッカーにしまった。

次の金曜日の朝
私は朝準備で一緒になった星さんに話しかけた。「星さん、楠元さんから渡してくださいと言われたものなのですが、何かわかりますか？」

星さんに楠元さんから預かったメモを渡す。すると星さんは「あー！たぶん、以前にDJタイム（音楽を流す時間）に『星に願いを』の曲が流れまして。それから楠元さんは、何か欲しいものがあるときは、願掛けで私に願い事をされているみたいです。叶うといいですね。」

Seiichi Kusumoto

KUSUMOTO SEIKI
楠元 征樹

絵の創作、日記、ポエム、リスト作り、刺繍、織物など、こつこつと好きなことを続けることが得意な楠元さん。楠元さんの緻密で丁寧な作品達は、毎日を大切に過ごす彼の人柄を表しているようです。楠元さんは自分の中にある世界と、他者のいる世界の両方を、それぞれを愛し、楽しんでいるようです。作品を見ていると、自分の人生を楽しみ、周りの人を大切にせねばと思ひ起こされます。



ごあいさつ

text by Hoshi Haruka

昨年6月から約一年間、非常勤職員として勤務している星と申します。

この度9月に出産を控え、6月末で退職することとなりました。一年間という短い間でしただが大変お世話になりました。

コーラルに入り、利用者の皆さまの集中して制作に取り組まれる姿や、一人一人異なる作品を間近で見ることができ楽しい日々を過ごすことができました。

一方、この関わり方でいいのだろうか日々悩むこともありましたが、どんなことを考えているのだろう、この方の好きなもの大事にしていることは何だろうと考える時間もまた、振り返ると楽しい時間だったと思います。

職員としてではありませんが、同じ地域で暮らす住民としてこれからも皆さまと共に生きていけたらと思っています。

新体制となったコーラルのこれからをずっと応援しています！



2024 T-shirt Collection

オレタチから、好きなワッペン
を1枚選んでくれよな!



さささ

きんぴらごほう

ワッペン付き 3,000円!
Tシャツ単品 2,700円!

マレーぐま



これほ、マレーぐま

ピクニック

